

報告タイトル

デジタル時代における中国共産党のガバナンス革新と「政務ニューメディア」の開設
The Chinese Communist Party's Governance Innovation in the Digital Era and "the
Government Social Media"

氏名(所属)

王 冰(北海道大学メディアコミュニケーション研究院)
Wang Bing (Hokkaido University)

要旨(800字程度)

デジタル時代に突入してから、中国共産党がインターネットやデジタル技術を利用したガバナンス能力(統治能力や執政能力ともいえる)の現代化の取り組みは、中国政府の最も注目される革新措置である。その革新措置の中で、「政務ニューメディア」の開設は1つの重要なものとして注目されるべきである。「政務ニューメディア」とは、共産党と政府機関はデジタルやモバイル技術を利用し、インターネットやソーシャルメディア、モバイルアプリケーションなどのプラットフォームで開設した政府系のネットメディア、端末アプリケーション及びソーシャルメディアアカウントのことである。中では党と政府機関はウェイボーなどの大手ソーシャルメディアに進出し、自身のアカウントを開設する動きが最も注目されている。

中国「政務ニューメディア」の開設は以下の経緯を経ている。2011年より党と政府は、ウェイボ(Weibo、中国版のツイッター)で「政務ウェイボー」と呼ばれる自身の公式アカウントを相次いで開設した。次に2013年より、党と政府はウィーチャット(WeChat、中国版のライン)で自身の公式アカウントを相次いで開設し、これらのアカウントを「政務ウィーチャット」と名付けている。さらに、2018年に党と政府は、ミニ動画アプリケーションであるティックトック(TikTok)に進出し、「政務ティックトック」と名付けられる自身の公式アカウントを開設し始めた。

本報告は中国共産党がデジタル技術を利用したガバナンス革新に注目し、党と政府が「政務ニューメディア」を開設する目的及び「政務ニューメディア」が担う役割を明らかにすることを目的とする。具体的に「政務ウェイボー」、「政務ウィーチャット」及び「政務ティックトック」のそれぞれの役割を明らかにするうえ、「政務ニューメディア」開設の模範モデルである「銀川モデル」と「上海モデル」事例も分析する。